

27年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 1月20日～ 27年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
仕入 動向	国産材製材品	△ 28.6	△ 42.9	△ 21.4
	外材製材品	△ 35.7	△ 35.7	△ 7.1
	構造用集成材	8.3	△ 12.5	8.3
消費 動向	国産材製材品	△ 35.7	△ 33.3	△ 8.3
	外材製材品	△ 35.7	△ 28.6	△ 7.1
	構造用集成材	△ 8.3	△ 8.3	8.3
在庫 動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 28.6	△ 14.3
	外材製材品	△ 28.6	△ 35.7	△ 14.3
	構造用集成材	8.3	△ 16.7	8.3

- ・国産材及び外材製材品の仕入れは、3ヵ月連続して減少、構造用集成材は2月の増加が3月は減少し、4月に増加。
- ・国産材及び外材製材品の消費は、3ヵ月連続して減少、構造用集成材は2月、3月は減少し、4月に増加。
- ・国産材及び外材製材品の在庫は、3ヵ月連続して減少、構造用集成材は2月の増加が3月は減少し、4月に増加。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
受注	△ 21.4	△ 14.3	0.0
加工	△ 21.4	△ 14.3	0.0
受注残	△ 28.6	△ 21.4	△ 7.1

- ・受注及び加工は、2月、3月は減少し、4月は横ばいに。
- ・受注残は、3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入れは、国産スギ丸太に窮屈感あり、製材品荷動き問題なし。消費は冬季低水準で推移。在庫は需要期に向け準備中。
- ・2月決算の関係もあり、仕入を調整する、消費はある程度ボリュームはあるため様子を見る、在庫は平均的なボリュームを心掛ける。
- ・入荷しづらいものもあるが、間に合っている。需要量と供給量のバランスは取れている。

(受注動向)

- ・受注低迷、加工量減少、受注残増えず。
- ・力強さに欠ける、
- ・地元大工、工務店の受注減。